



とびだす!

KON-KON! おじゃまします

15

発行：特定非営利活動法人まちづくりスポット大津
住所：滋賀県大津市二本松1番1号ランチ大津京内
<https://machispo-otsu.net>

「傾聴」ボランティアと聞いて、みなさんはどんな活動をする団体なのか想像できますか？

今回は「おおつ傾聴ボランティアダンボの会」三役である大塚さん（代表 / 湖南ブロック）、吉本さん（副代表 / 中部ブロック）、中村さん（副代表 / 湖西ブロック）にお話を聞かせていただきました。

（以下、敬称略）

聞き手：伊東、坂本（以下、まちスポと表記）

活動名

おおつ傾聴ボランティア ダンボの会

活動のきっかけは？

まちスポ：みなさんそれぞれがダンボの会に参加されたきっかけは？

大塚：大津市広報紙を見て。生協の活動の中では人の声を聞くことが主な仕事で、その声を聞いていくなかで「傾聴」の大切さに気づき、これを学問として学び、それが言葉になるのを知りたいと思ったからです。

吉本：自身の両親が遠方に住んでおり、高齢化して気になるが会う機会が少なく、本当は自分が会いに行き話を聞きたいけれどもそれができない。じゃ、自分が大津で活動をすることで「傾聴」を知ってもらい、その活動がひろがっていくといつかは両親の地域でも自分みたいな人が現れるのではないかと、ということを期待し講座に応募しました。

また会に入会する前は個人で話を聴いていましたが、対応など悩むことがあり、個人活動に限界を感じました。そこで学びを深めるため「ダンボの会」に入会しました。

中村：親の介護・看取りを経験しました。その後これからどうするかを考えました。そのときに、大津市広報の「傾聴ボランティア講座」が目にとまりました。介護の経験と、何らかの形で社会と関わりを持ちたいと思っていたので応募しました。

傾聴内容

まちスポ：依頼されるのはどういった方ですか？

中村：高齢者の方、認知症の方の介助・介護をされているご家族、またケアマネジャーさんや施設などからです。

まちスポ：依頼されたら？

大塚：まず事前に依頼者と会で面談をし、傾聴する上で「ダンボの会」としてのいくつかのお約束事等お伝えします。



インタビュー風景

吉本：面談には三役の内1人、地域のブロック長、ケアマネジャーさん等が参加し、訪問にあたってご利用者の状況等を伺います。

まちスポ：傾聴ボランティアで心がけていることは何ですか？



お話を聞いたダンボの会メンバー
中村さん（左）、大塚さん（中）、吉本さん（右）
手元は活動10周年記念誌

KEYWORD!

傾聴とは？

相手の話を、相手の立場に立って、相手の気持ちに共感しながら理解しようとする。相手の話を善悪の評価、好き嫌いの評価を入れずに聴くこと。

「ダンボの会」誕生

大津市に必要な地域福祉活動において、傾聴スキルを持った市民が増えたら、との思いで平成18年大津市社会福祉協議会主催の傾聴ボランティア講座が開催され、第1回講座の修了生のうち20名が集まり平成19年に会が発足。大津市全域で依頼のある施設や個人宅に出向き、お話し相手が必要とされる高齢者の方に寄り添って耳を傾け、少しでも楽しい時間をすごしていただくことを目指す。活動の合間に「傾聴」をテーマとした講話・事例発表、地域のボランティアイベントへの参加、他団体との意見交換会などを行っている。

発足時20名程度だった会員数は、コロナ禍で減少したものの、現在は45名、40歳～90歳のメンバー（男性：4/女性：41）が大津市全域で活動中。入会は大津市社会福祉協議会主催の「傾聴ボランティア講座」の講義を3日間受け、修了することが条件。会員の高齢化が進む中、近年は40歳代の子育て中ママたちも入会されている。

吉本：相手に共感し聴きます。中には思い悩んだ相談や愚痴もありますが、みなさんにこやかですね。

大塚：次の話に進むような質問をなぜかけ会話をひろげます。「じゃあ、それって？」みたいに。



大津市社会福祉協議会による「傾聴ボランティア要講座」がみなさんのきっかけ

話が広がらなくてもいいのです。毎回同じ内容でもいい。

中村：話すことでスッキリされ、行き滞っていたデイサービスにまた行き始めたりされてます。

大塚：聴いた内容は守秘義務があるので、自身の家族や親、兄弟姉妹、子どもであっても絶対他言しないというルールを守り、ブロック会議の中だけで共有し受けとめ合っています。



気になる活動費のこと

まちスポ：会費や個人の活動頻度は？

大塚：年会費が1000円です。

吉本：活動は多くても月3回くらい。交通費は個人負担です。傾聴ボランティアへ行く時は電車かバスを使うことが多いので、あまりに遠い場所だとお断りすることもあります。

まちスポ：傾聴ボランティアに行かれた時、利用料が発生するのですか？

中村：いただいていません。3年前までは市民センターの使用料も払っていましたが、大津市社会福祉協議会（以下、社協）の力添えがあり、地元で活動するボランティア団体は無償になり活動しやすくなりました。社協や包括支援センター、ケアマネジャーなどに「ダンボの会」の認知度が上がってきたんだと思います。

コロナ禍での活動

まちスポ：コロナ禍ではどう活動されてましたか？

吉本：個人宅や施設の入りが出来なくなり社協から紹介された絵手紙サークルの手作り絵葉書と切手を使ってください、と声をかけていただきました。訪問が出来なかった3年間は、その絵葉書をで利用者さんにお手紙を送って

いました。なかにはお返事をくださる方もありました。

活動を通して見えてきたこと

まちスポ：活動を通して他に社会的課題を感じることはありますか？

大塚：つながっていく場所が少ない。コロナ禍の影響もあるかもしれませんが、気軽に立ち寄って、しゃべって帰る、そんな居場所が少ないと思います。

吉本：百貨店やスーパーも出会いの広場なんです。前にあった西武百貨店。毎日同じ人を見かけ顔なじみとなりお喋りの場となっていた。閉店となり行き場がなくなり、外に出なくなり、行くところがなくなったという話を聞きました。



これからの「ダンボの会」

大塚：わたしがちょっと頑張ることでちょっとつながる、それが一つになり、輪になり、輪が大きくなっていく、これが世の中の平和につながっていくと信じているんです。傾聴だけでなくもう一歩ふみ出して違うボランティアに参加してみよう!だったり、ちょっと前向きになれるような発信をしていきたいと思っています。

来年、国連から2回目の国際協同組合年が提唱されるのですが、これと自分の世界平和という夢がつながりを感じました。世界が良くなるためには私達はどう行動すべきかを考え、自分も頑張らなくちゃ!と思いました。

吉本：傾聴ボランティアはとても必要な活動だと思っています。コロナ禍でさらに強く思い「ダンボの会」を絶やすことなく若い世代にうまくつなぐにはどうしたらいいのか。会の決まり事も社会の変化にも合わせ変えなくては変えながらつないでいくにはどうしたらいいのか。これが今の課題です。みんなと一緒に悩みを話し合

い、また勉強会や講演を聴き学ぶことで、自分の傾聴の幅が広がっているので、こういったことが必要だと感じています。

中村：「だれ一人、取り残さない社会に」とテレビなどで言われているのを聞いていて、それが実現できれば、そこに住む人たちが幸せでなければ、いくら世の中が経済成長したとしても、幸せとはいえない。ひとりひとりの幸せがあってはじめて日本の繁栄であり幸せにつながっていくと感じています。たとえばブータン。国民の幸福度が世界一高い国。日本もそういう国になればいいと思います。自分のしていることは些細なことだけれども、些細な活動をしている人口が増えれば、大きな流れになり物事が動いていくことになる。そんな人が少しでも増える社会になればこの国も、世界も変わるんじゃないかなと思って。一人一人の意識変革が大事だと考えています。

2024年6月17日にお話を伺いました。

大津市社協の
傾聴ボランティア養成講座に
参加してみようかな…。



おおつ傾聴ボランティア ダンボの会

団体名 おおつ傾聴ボランティア ダンボの会

活動地 大津市内全域

情報発信 https://www.otsu-shakyo.or.jp/volunteer_search/group/detail.php?bid=151



■ 誌面に関するお問い合わせ

特定非営利活動法人 まちづくりスポット大津
〒520-0021

大津市二本松1番1号 ブランチ大津京内

MAIL: info@machispo-otsu.net

<https://machispo-otsu.net>

TEL: 077-511-9814

FAX: 077-548-6758

